

視点

アジアにおける性教育の発展への希望 ―第5回アジア性教育学会に参加して―

性教協代表幹事 田代美江子

8月12日から16日にかけて中国四川の成都で開催された第5回アジア性教育学会(以下、アジア会議)に参加してきました。私にとっては初の訪中でしたが、私の研究室に所属する大学院生の張莉さんのおかげで、とても充実した中国訪問となりました。

性教協研究局に所属するメンバーで構成する私たち研究グループは、2011年から東アジア、具体的には韓国、台湾、香港、中国大陸(都市部)をフィールドに性教育研究を始めています。東アジアに着目した背景には、日本を含む東アジア諸国が、家父長制的家族を重視し、多様性に不寛容であり、ジェンダー平等の実現に多くの課題を抱えているという点で、ジェンダー・セクシュアリティ・多様性をめぐる共通した社会的・文化的背景を有しているのではないかと考えたからです。研究を進めていく中で明らかになったことは、韓国、台湾、中国では、学校で性教育が実践されるための法的・制度的基盤が比較的整っているということです。また、現在『季刊セクシュアリティ』で『性教育国際指針(ガイダンス)』(以下『指針』)について連載していますが、台湾と中国では、この『指針』を踏まえた、性教育の手引きやテキストがすでに出版されているのです。もちろん、学校で実際に性教育が実践されているかどうか、それがどのような内容であるのかという点では、日本と同様の課題を抱えています。しかし、制度的基盤があるという点とはとても重要なことです。

今回、中国で開催されたアジア会議の論文集冒頭に掲げられている「性教育の新定義」にも、こうした国際的な性教育の動向を踏まえて、「性教育は、性の健康と権利

を実現するための、人間の生涯にわたる包括的な内容を持つものである」と宣言されています。私たちは、初日の全体会で、これまでの研究成果の一部として「東アジアにおける性教育の制度的基盤と『性の多様性』を学ぶ授業づくり」というタイトルで報告してきました。中国での会議で、中国語で発信したいという私の強い願いを支えてくれたのが張莉さんでした。そして、四川青少年性教育基地の胡珍さん、北京性健康教育研究会の張玫玫さん、若者のエイズ問題に取り組む中国青愛工程の李扁さんなど、中国で性教育に取り組む多くの人々と交流することができました。また、四川性社会学・性教育研究中心(以下、四川性教育センター)を訪問することもできました。

ここで少し、この四川性教育センターについて紹介しておきたいと思います。センターは現在、成都工業学院の図書館のワンフロアにあり、「性文化展示室」や「図書資料室」も備えています。このセンターは、四川省教育庁承認のもとで性教育研究の重点基地として2006年に設立されました。学術研究だけでなく、小学校から大学までの性教育教材を多く出版しています。教員研修も含め、学校における性教育の発展のための活動も精力的に行っているようです。さらに、四川だけではなく、中国全土の性教育関係機関や組織、研究者との学術交流も積極的になされています。

今回、中国における性教育の新たな動向に触れることができたことを、とてもうれしく思いました。中国の性教育を積極的に担っている女性研究者たちとのシスターフッド(女性の連帯)のような感覚は感動的でもありました。アジア会議では、学校現場の先生方が積極的に報告をし、また多くの若者が、全体会で自分たちの意見を物怖じせず懸命に伝えようとしていました。この熱気を、日本はもちろんのこと、もっと多くのアジア諸国の人々と共有できることが、今の時代、さまざまな意味で重要なことだとあらためて実感しました。「アジア性教育学会」という名が実のあるものとして発展するために、何ができるのか、研究を通してあらためて考えていきたいと思いました。